

(商品別輸出)

品目	2008年度 (実績)		2009年度 (見込み)				2010年度 (見通し)				コメント
	10億円	伸び率%	上半期		下半期		10億円	伸び率%	10億円	伸び率%	
			(実績)	(見込み)	(実績)	(見込み)					
<b>総額</b>	71,145	16.4%	27,280	36.4%	29,737	4.6%	57,017	19.9%	61,477	+7.8%	
食料品	384	7.8%	177	13.5%	171	4.4%	348	9.2%	352	+1.1%	魚介類は、サケが価格上昇で海外からの引き合いが弱まり低迷、穀物は、数量・価格とも前年を下回る水準で推移。
原料品	941	13.5%	447	27.2%	452	+38.4%	900	4.4%	1,002	+11.4%	金属鉱及びずは、主要品目の鉄スクラップが海外需要の増加により数量ベースで増加傾向。価格はも足元では低迷するものも持ち直しつつあり、下半期には総額ベースで前年を上回る見込み。生ゴムは、合成ゴムの需要が、自動車生産縮小に伴い低迷。年度後半にかけて価格・数量ともにも復調。織物用繊維及びずは、合成繊維(短繊維)を中心に在庫調整進展の結果、価格は下支えされて横ばいで推移するが、需要は盛り上がり欠ける。
鉱物性燃料	1,708	+43.2%	534	53.8%	570	+3.3%	1,104	35.4%	1,164	+5.4%	上半期の石油製品の輸出額は、軽油・灯油の大幅減を受け、50%以上の減少。通年では、2008年度の資源価格高騰の反動による価格の大幅下落もあり、3割程度の減少。ジェット燃料、軽油の国内製品は国内市況の低迷から輸出に振り向けられる傾向にあるが、海外市況も需要減少を受けて低迷しており、2009年度下半期の輸出数量も微減。
化学製品	6,475	17.2%	3,035	23.6%	3,077	+23.0%	6,112	5.6%	6,625	+8.4%	2008年秋に発生した金融危機により世界の化学品の需要は大きく落ち込み、日本の輸出も2009年1月には危機前の半分以下にまで落ち込んだが、その後、中国の景気刺激策の効果により、自動車や家電向けを中心に化学品の輸出は急速に持ち直し、2009年度後半は危機前の8-9割程度の水準にまで回復する見込み。
原料別製品	9,231	8.4%	3,466	35.7%	3,800	1.1%	7,266	21.3%	7,978	+9.8%	鉄鋼は、国内需要低迷も自動車向けを中心に輸出は底打ち。銅などの非鉄金属は、下半期の市況上昇により通年の落ち込みは穏やか。総じて、上半期は大幅に落ち込んでいるものの、下半期にはアジアを中心に世界経済が回復の兆しを見せたことを受け、下げ止まりの動き。
鉄鋼	4,227	+2.0%	1,388	42.6%	1,510	16.6%	2,898	31.4%	3,108	+7.2%	国内需要の低迷が続く一方、鉄鋼輸出は、夏場から増加傾向をたどっており足元は350万トン超/月の高いレベルとなり自動車用鋼板を中心に輸出依存度が高まっている。世界経済は自律的回復には至ってあらず、各国の経済対策が一巡した後の需要の反動減に対する警戒感も強まり今後の動きが不透明。さらに中国の供給過剰状態が深刻化。また、足元、輸出市況が下落基調に転じるなど、アジアを中心に鉄鋼需要の先行きが極めて不透明な状況。
非鉄金属	1,269	20.7%	540	31.8%	642	+34.8%	1,182	6.8%	1,348	+14.0%	銅は、数量微増、価格上昇傾向。アルミは、リーマン・ショック後の需要減少および円高の影響で数量減少。
織物糸・繊維製品	695	14.8%	283	27.8%	286	5.4%	569	18.1%	650	+14.2%	産業用途のうち特殊繊維などは、自動車などの生産減少にあわせて輸出が急落。糸など原材料は、そのほか、円高、国内生産撤退などの動きも減少要因。
非金属鉱物製品	806	16.0%	366	24.8%	391	+22.3%	757	6.1%	816	+7.8%	非金属鉱物製品は、下半期にかけて価格・数量とも緩やかに持ち直す見込み。ガラス及び同製品は、板ガラスなど、原料コスト上昇の転化により価格がわずかに上昇。数量ベースでは、下半期に建築・車両向けを中心にアジア向け需要が増加。セメントはアジア向けを中心に数量が若干増加し、価格も国内での値上げを反映しわずかに上昇。
一般機械	14,026	16.6%	4,623	44.4%	5,074	11.2%	9,697	30.9%	10,152	+4.7%	上半期は、建設用・鉱山用機械、金属加工機械が減少し、輸出金額は軒並み4割以上の減少。下半期は、電算機類の輸出数量はやや持ち直すが、原動機、金属加工機械類等の需要の大幅な回復はない。
電算機類 (含周辺機器)	631	27.3%	212	43.6%	228	10.2%	440	30.2%	462	+4.9%	上半期は、電算機類に加え周辺機器も輸出数量が大幅に減少。またアジアを中心に低価格製品の需要が相対的に高まった結果、単価も下落傾向にあり、4割以上の減少。上半期の輸出数量の増加はIT投資の先送りによる側面もあり、下半期は緩やかに輸出数量が回復する可能性もあるが単価は下落傾向。
電算機類の部分品	1,483	19.5%	603	30.6%	650	+6.0%	1,254	15.4%	1,360	+8.5%	上半期は、輸出数量の大幅な減少により輸出金額は3割の減少。下半期は、上半期に先送りされたIT投資が実行に移され、緩やかに需要回復し数量ベースでは上半期をやや上回るものの、前年の輸出量には及ばない。
電気機器	13,571	18.9%	5,630	31.7%	5,933	+11.5%	11,563	14.8%	12,095	+4.6%	2008年度後半からの景気後退の影響を大きく受け、2009年度前半に半導体等電子部品を中心として大幅な減少。各国景気対策により年度後半で増加するも、全体で大幅減。
半導体等電子部品	4,068	19.7%	1,838	27.0%	1,870	+20.6%	3,708	8.9%	3,882	+4.7%	年度後半からの景気刺激策効果により増加傾向にあるが、前半の落ち込みをカバー出来ず、通年では大幅に減少。
輸送用機器	16,891	20.9%	5,834	43.3%	7,210	+9.1%	13,044	22.8%	14,206	+8.9%	自動車輸出は、2008年度後半以降の金融危機で、全市場向けに大幅激減。上半期は、先進国で約70%減、新興国向けも50%近い落ち込み。夏以降、各国のスクラップインセンティブで持ち直し、特に中国向けは危機前まで回復。下半期は、数量ベースでは前年割れが続くものの、前年同期に在庫調整のための大幅な値引きがあったため、金額では増加に転じる。船舶は2年以上先まで契約が進んでおり、目先の落ち込みは見えず、円建ての契約が多く、通貨レートの変動の影響は少ない。
自動車	11,129	24.2%	3,330	53.8%	4,164	+6.0%	7,494	32.7%	8,243	+10.0%	2008年度後半以降の金融危機で、全市場向けに大幅激減。上半期は、先進国で約70%減、新興国向けも50%近い落ち込み。夏以降、各国のスクラップインセンティブで持ち直し、特に中国向けは危機前まで回復。下半期は、数量ベースでは前年割れが続くものの、前年同期に在庫調整のための大幅な値引きがあったため、金額では増加に転じる。
自動車の部分品	2,627	22.3%	1,189	26.4%	1,316	+30.0%	2,505	4.6%	2,882	+15.0%	2008年10月以降の金融危機で大幅に下落。夏以降、アジア向けを中心に回復。
船舶	1,981	+4.3%	937	+9.6%	1,330	+18.1%	2,267	+14.5%	2,201	2.9%	2年以上先まで契約が進んでおり、目先の落ち込みはない。円建ての契約が多く、通貨レートの変動の影響は少ない。
その他	7,918	17.7%	3,534	25.0%	3,450	+7.6%	6,984	11.8%	7,903	+13.2%	科学光学機器、記録媒体、写真用・映画用材料などは、いずれも下半期は回復傾向に。ただし、回復具合には濃淡。「その他」項目は全体のほぼ半分を再輸出が占めており、再輸出は、おおむね輸出全体の趨勢と類似して推移。
科学光学機器	1,773	17.2%	829	24.1%	820	+20.6%	1,649	7.0%	1,814	+10.0%	先進国の設備投資の減少と資源国や途上国での投資の見直しや延期で計測機器類が減少。下半期は、前年同期の大幅下落の反動で増加。

\*金額は億円単位を四捨五入  
\*「」は前年度比増加、「」は減少、「」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している